

編集後記

先月、光の科学に関する市民講座を担当しました。テーマは「人類と光」。人類がどのように「光」というものの性質を理解してきたのか、という科学史のお話です。一般向けの講座では、スライドによる講義だけではなく、実験などの実演をすると受けが良いようです。私は理論屋だから実験はできん、などとわがままを言うわけにもいきません。少しでも楽しんでもらえるよう、拙い手つきで実験のようなことをしています。

今回の市民講座では、小道具としてピンホールカメラを作ってみました。その歴史は古く、紀元前5世紀頃に中国で活躍した墨子の著書にその記載があるとか。話のまくらにもってこいだと思い立ち、ネットで調べた情報をもとに100円ショップで材料を買い揃えまし

た。暗箱には黒いゴミ箱を選択。ピンホールには使用済のテレホンカードの穴が良いという情報があったのですが、今や公衆電話を使う機会など皆無。家探しをして、なんとか使用済のク○カードを発見。ゴミ箱の底に穴を開けようとして勢い余って底をプチ抜くなどの失敗はありましたが、なんとか完成に漕ぎ着けました。完成したピンホールカメラを持って外に出て景色を見てみると、ちゃんと映ります。嬉しくなって、あっちやこっちを見て回りました。大学内でゴミ箱に顔を突っ込んでうろうろしていた私は、周囲の学生たちからはきっと不審者だと思われていたことでしょう。

ちなみに市民講座ですが、部屋が暗かったので映りはイマイチでした。(三浦)